

会 議 録

会議の名称	第2回弥富市総合計画審議会
開催日時	平成29年12月5日(火) 開会：13時30分 閉会：15時50分
開催場所	弥富市役所十四山支所 3階 協議会室
出席者及び 欠席者	出席者：釜田公良(会長)、入江容子(職務代理者)、岡村常良、鬼頭由美子、八木輝美、竹川常夫、鈴木篤、本間士朗、安井和美、大西英一、東嶋とも子、佐藤仁志、林伸一(順不同) 欠席者：手嶋正章、伊東信行 事務局：市長、副市長、教育長、総務部長、民生部長、開発部長、教育部長、議会事務局長、秘書企画課職員3名、ランドブレイン(株)2名 傍聴人：1名
会議内容	1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 (1) 基礎資料集について (2) 市民等アンケート調査結果について (3) 現行計画の進捗状況の評価等について 4 協議事項 (1) 基本構想(骨子案)について 5 その他 6 閉会
会議資料	次第 配席図 資料1 弥富市総合計画策定のための基礎資料集 2-1 第2次総合計画づくりに向けたアンケート一般市民【調査結果報告書】 2-1 (抜粋) 市民意識調査結果 自由意見 2-2 第2次総合計画づくりに向けたアンケート中学生【調査結果報告書】 3 現行計画の進捗状況の評価等一覧表 3-1 第1次総合計画後期基本計画施策評価結果について 4 第2次弥富市総合計画基本構想(骨子案) 市民ワークショップ まちづくり提言集
発言者 事務局(秘書 企画課長)	会議の経過(議題・発言内容等) 1 開会 少し定刻より早いですけれども、只今より「第2回弥富市総合計画審議会」を開催させていただきます。 本日、司会を務めさせていただきます 秘書企画課長の佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、手嶋委員と伊東委員より欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告をさせていただきます。 審議会に入ります前に、本日使用します資料の確認をさせていただきます。まず、先日郵送でお送りした「次第」、「資料1 弥富市総合計画策定のための基礎資料集」、「資料2-1 第2次総合計画づくりに向けたアンケート一般市民【調査結果報告書】」、「資料2-2 第2次総合計画づくりに向けたアンケート中学生【調査結果報告書】」、「資料3 現行計画の進捗状況の評価等一覧表」、「資料4 第2次弥富市総合計画 基本構想(骨子案)」の6点と、本日お配りいたしました「配席図」、「資料3-1 第1次総合計画後期基本計画策定評価結果について」、差し替えとなります「資料4 第2次弥富市総

市長

合計画 基本構想（骨子案）」、「市民ワークショップまちづくり提言集」、「資料 2-1（抜粋）」、「Q12-1 弥富市に住み続けたい主な理由はなんですか」の 6 点です。お持ち忘れ等がございましたら挙手のうえ、お申し出ください。

さて、当審議会は、弥富市総合計画審議会傍聴要領の規定によりまして、会議を公開とさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。傍聴の方がお一人お見えになりますので、よろしく申し上げます。

それでは、次第に基づきまして進行させていただきます。次第の 1 「あいさつ」に移ります。

始めに、服部市長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

皆さん、こんにちは。12 月に入りまして、何かと気忙しい、また季節的にも大変寒い季節になってまいりまして、そのような中、各委員、第 2 回の総合計画の審議会という形の中でご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。この場を借りまして、厚く感謝を申し上げます。

第 1 回から今日まで、私どもとして、行政としてやってきたことの内容について、少しごあいさつの中にも含めさせていただきながら、今日ご審議いただきます事項につきまして、ご説明申し上げていきたいというふうに思っております。

弥富市では、今年度は、行政の構造改革元年と定め、各種事務事業の見直し等、さまざまな取り組みを行っているところであります。第 2 次総合計画の柱の 1 つとしては、行財政改革ということが大きな柱になることを私としては考えておるところでございます。その中でも、公共施設マネジメントの課題は、大変重要なテーマであると考えております。

今年度は、第 2 次総合計画策定のための取り組みとして、一般市民 3,000 人と市内の中学生 2 年生全員を対象に、アンケート調査を実施いたしました。また、庁内におきましては、職員向けに総合計画策定研修会を 2 回開催し、1 回目は 8 月の 4 日に、愛知大学地域政策学部教授の野田先生に、総合計画の主要な要素とこれからの行政運営について、ご講演をいただきました。そして 2 回目は、10 月の 31 日に、名古屋大学大学院工学部工学研究科准教授の恒川先生に、まちづくりとしての公共施設マネジメントについてご講演をいただいたところでございます。これまでに、副市長を委員長とする総合計画策定委員会を 2 回開催し、事務的な協議を行い、併せて幹事会、および作業部会を適時開催をしております。

さらに、第 1 次総合計画の進捗状況の評価等を各担当に作成を依頼し、その結果を作業部会、策定委員会にて取りまとめてまいりました。10 月 4 日から 11 月 15 日の間に総合計画市民ワークショップを 4 回開催し、約 40 名の方にご参加いただいたところでございます。また、今週 12 月の 9 日には、市民を対象として、総合計画セミナーを開催いたします。当委員の入江先生のゼミ生による政策提言の発表もあり、ご都合がございましたら、ぜひ各委員ご参加くださいますようお願いを申し上げます。委員の皆さまには、本日の報告事項でございます、基礎資料、あるいは市民等アンケート調査、あるいは現行計画の進捗状況の評価等について、忌憚のないご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、これから冬本番と寒い日が続きますので、健康には十分ご注意ください。私ども弥富市の発展のために変わらぬご協力を重ねてお願い申し上げます。冒頭のあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局（秘書
企画課長）

どうもありがとうございました。続きまして、当会の会長であります釜田会長、よろしく願いいたします。

釜田会長

本日は、第2回の総合計画審議会ということで、第2次総合計画の基本構想について審議をお願いいたします。総合計画は、自治体計画の最上位計画ということで、また、その中でも基本構想というのは、総合計画の頂点に位置するというので、この総合計画の基本構想っていうのは、ほんとに自治体運営の根幹を成すものだと思いますので、どうぞ慎重にご審議いただきますよう、よろしく願いいたします。

私が総合計画、特に基本構想に関して重要だと考える点が3点ございます。

まず1点目は、できるだけシンプルで分かりやすい計画じゃなければいけないと。これは行政のみならず、総合計画は、市民の行動の指針にもなり得るものだと思います。そうすると、常に頭の中に入れてなければいけないわけで、複雑なものだったり、冗長なものだったりすると、理解できない、記憶できないってことになってしまって、頭の中に入らない。そうすると、やっぱり意味がないと思いますので、やはり何を実現するのかをはっきりと示すべきだと考えております。

2点目は、計画推進の主体を、行政のみならず市民全体とするべきだと思います。先ほど市長からお話がありましたように、市民ワークショップが開催され、私も最終回に顔を出させていただきました。そこでは、市民の皆さんが、非常に熱心に、積極的にグループワークに参加されていました。改めて、総合計画の主体っていうのは市民であるべきだというふうに認識したわけです。行政が市民に理解と協力を求めるというようなスタンス、従来型のスタンスからはやっぱり一歩進んで、市民との協働っていうキーワード、よく出てきますけれども、やはりそういう方向で考えるべきじゃないかと考えております。

3点目は、その計画の実現をどう確認するのか、後からですね。評価の。そこが明確になっていなければいけないと。基本構想はPDCAの核になるものでありまして、その目標が達成されたかどうかっていうのがはっきり分からないような目標というのは、目標としての意味がないということなので、後からその目標が実現されたかどうかっていうのが非常に分かりやすいような計画っていうのを策定しなければいけないと考えております。

そういうことで、以上の3点を私としては念頭に置きまして、進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

事務局（秘書
企画課長）

ありがとうございました。それでは今後の進行につきましては、釜田会長の取り回しでお願いしたいと存じます。それでは釜田会長、よろしく願いいたします。

釜田会長

3 報告事項

それでは次第の2、報告事項に移ります。

事務局より、1、基礎資料集について、2、市民等アンケート調査結果について、3、現行計画の進捗状況の評価等について、これらは全て総合計画策定のベースとなる資料ということです。

これらについて、一括して報告をお願いいたします。

事務局（横井）

それでは、事務局から説明をさせていただきます。

先ほど、(1)、(2)、(3)の基礎資料集について、市民等アンケート調査結果について、現行計画の進捗状況の評価等につきましては、(3)番でご協議いただきます基本構想、骨子案についての基となる資料となりますので、簡単にまず説明のほうをさせていただきます。

まず資料1をご覧ください。資料1、まず表紙を開いていただきますと、社会情勢について記載がありまして、人口減少、高齢社会の到来について記載しています。その下の棒グラフをご覧くださいと、日本の総人口は、2015年の国勢調査によりますと、約1億2,700万人、国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、2065年まで人口は減少傾向に入っております。詳しく見ていただきますと、総人口に対しましては、2055年ごろに1億人を割れてくると。2065年には、平成27年、2015年の約7割の人口に減ってくると。また、2035年には、高齢人口が33%近くになり、3人に1人が高齢者。2065年には、10人に4人が高齢者ということで、高齢化が進んでまいります。また、生産年齢人口につきましても、2015年と26年を比較しますと、10ポイント減少をしております。年少人口も、若干ではありますが、減ってきております。これが日本の状況になります。

5ページをご覧ください。こちらでは、インフラの老朽化ということをご記載してございまして、2012年、平成24年に、皆さまご存じのように、中央自動車道の笹子トンネルの天井板が崩落するという大きな事故が起きております。それから、国のほうが各自治体に対して、公共施設のマネジメントについての計画を策定しなさいよという要請が出ております。本市、弥富市におきましても、平成28年3月に公共施設等総合管理計画を策定して、現在取り組んでおるところでございます。

次、9ページをご覧ください。この9ページ以降につきましては、弥富市の現況についてまとめております。

続いて11ページです。弥富市の人口について記載をしております、国勢調査の状況が真ん中あたりの棒グラフに書いてあります。弥富市におきましては、平成22年、4万3,272人をピークに減少傾向に入っております。また、平成7年と平成27年の世帯数、緑の棒ですけれども、比較してみると、世帯数が3.38、1世帯3.38人だったものが、27年には1世帯2.70人ということで、1世帯の世帯人員が減ってきております。

次、12ページをご覧ください。こちらは弥富市の年齢3区分ごとの人口推移を示しております。平成7年と平成27年のグレーのところ、一番上のところ、これは高齢人口を示しております、この20年間で65歳以上の高齢人口が2倍に増加しております。ちなみに弥富市の状況でいきますと、平成27年の24.7%というのは、全国平均の26.6%と比較しますと2ポイントほど低い状況で、ほとんど全国並みであります。あと、ブルーの生産年齢人口につきましても、平成7年と27年を比べますと、10ポイントほど下がっております。同じく年少人口も16.2%から13.6%ということで減ってきて、こちらは減少傾向になっております。

続きまして、16ページをご覧ください。こちらは弥富市の外国人登録人口について、データを示しております。真ん中の表をご覧くださいと、弥富市の平成28年度の外国人人口は1,521人。その中でも一番多いのが、ブラジル人が436人ということで、約3割の方がブラジルの方になっております。平成28年度の外国人登録人口と24年度を比べてみますと、約30%の外国人の方の人口が増加しております。

隣のページをご覧ください。土地利用についてでございます。①としまして、土地利用現況。本市の地目別土地利用状況につきましては、このブルーとオレンジのところですね、田と畑合わせますと、約6割が農地ということになっております。

次、19 ページをご覧ください。19 ページのほうは土地利用についてです。用途地域別面積について、データを示しております。弥富市の約 8 割、79.0%、8 割は市街化調整区域、残り 21%、2 割が市街化区域となっております。市街化区域の約 2 割のうちの、その下、工業地域、工業専用地域を足します。工業系の地域は、この残りの 2 割のうちの 6 割が工業地域となっております。

続きまして、23 ページをご覧ください。こちらは、弥富市の市道ですとか、橋梁の状況を示しております。本市は南北 15 キロ、東西 9 キロという縦長の町であります。面積も広いということもありまして、道路延長、舗装延長、こちらが 57 万 m と、53 万 m ということになっております。道路につきましては、24 年と 29 年を比較しますと、増加はしておるものの、具体的には 1% 程度の増加ということになっております。橋梁につきましては、現在弥富市には 594 の橋が設置されております。

続きまして、24 ページをご覧ください。こちらはコミュニティバスの利用状況について書いてございます。弥富市におきましては、北、南、東の 3 ルートで、バス 5 台で運行をいたしております。年間利用者数は、平成 28 年度で 7 万 6,276 人、1 人平均が 260.3 人ということでございます。これも 24 年と 28 年を比較しますと、1 割程度利用者が増えておるという状況でございます。

続きまして、27 ページをご覧ください。こちらは、農業ですとか、漁業、産業についてのことがデータを示しております。まず金魚の養殖につきましては、漁業センサスによります平成 5 年以降、金魚経営体数、総養殖面積共に減少をしております。棒グラフを見ていただきますと、平成 5 年が 176 件、平成 25 年が 82 件ということで、約半分の経営体数になっております。それに比例しまして、赤い折れ線グラフですけれども、総養殖面積につきましては、平成 5 年の 1 万 2,373 平方 m、これはアールから、4,949 アール、これは 4 割ほどになっております。平成 5 年の 4 割になっておるということで、縮小傾向にあります。

28 ページをご覧ください。こちらは農業についてのデータになっております。農家数、経営耕地面積について記載しております。こちらは平成 17 年、22 年、27 年のデータを記載しておりますが、こちらに関しまして、全農家数は減少しております。ですけれども、専業農家数に関しましては、逆に、平成 28 年は 185 ということで、増加傾向にあります。

続きまして、その下です。商店数、従業員数につきましては、これは平成 19 年、24 年、26 年のデータを比較しておりますけれども、平成 19 年から 24 年まで、このときには卸売業、小売業が激減しております。平成 24 年以降、26 年までは、減少はちょっとストップしているということになっております。

続きまして、31 ページをご覧ください。小学校別、中学校別の生徒数の推移を示しております。一番下の表をご覧ください。平成 25 年では、弥富市の全小学生の数が 2,254 名。平成 29 年では 2,445 名ということで、この間で、全体では約 5% の減少になっております。

続きまして、次のページに移ります。こちら中学校別生徒数の推移数について示しております。上から 2 段目の表を見ていただきますと、こちら平成 25 年から 29 年の間、1,309 名から 1,230 名ということで、約 6% の生徒数が減少しているということが伺えます。

続きまして、36 ページをご覧ください。こちらは子育てについて。保育所についてのデータを記載しております。一番下の表にありますけれども、平成 29 年 4 月 1 日現在の保育所の状況について示しております。弥富市の保育所、全体の定員が 1,440 人。失礼しました。38 ページですけれども、

こちらにつきましては、各保育所の状況について、定員が 1,440、入所者数が 1,022 名ということで、定員オーバーは、弥富市においてはしておりません。

続きまして、42 ページをご覧ください。(9)、財政についてということで、弥富市の財政状況を示しております。決算ベースで、歳入、歳出の状況を示しております。

43 ページです。こちらに関しては、歳入の状況。平成 27 年からずっと書いてあるんですけども、こちらで特に見ていただきたいのが市税の増加傾向です。歳入については、市税は増加傾向にありますという形になります。

44 ページをご覧ください。こちらについては歳出内訳について書いてありますが、こちらは目的別の歳出内訳ということで、一番増加率が多いのは民生費が多くなっております。ちょっとこちらのほうでは性質別の歳出にはなっておりませんが、要因としましては、介護、医療、福祉の扶助費の増加が原因ということでもあります。ということで、まず弥富市における基礎資料について、簡単に説明をさせていただきました。

続きまして、一般市民の方を対象にしたアンケート調査結果、また、中学生の 2 年生の方に行ったアンケート調査結果についてご説明のほうをさせていただきます。資料の 2 の 1 と、資料の 2 の 2 をお出しください。

それでは表紙をめくっていただきますと、調査概要ということで、こちらは無作為に抽出した 16 歳以上の男女 3,000 名を対象に、7 月 30 日から 9 月 8 日の間、郵送によるアンケートを行いました。有効回収率は 916、回答率は 35%。10 年前、第 1 次総合計画策定時の結果でいきますと、その当時は 42%ということで、第 2 次のアンケートは前回よりも 10%ほど少なかったという状況であります。調査項目としましては、1 番、あなた自身について。2、弥富市の印象などについて。3、あなたの日常的な行動。4、地域、社会活動の参加状況。5、市政に対する評価。6、これからのまちづくりについて。全 24 問と、あと自由記載欄を設けてアンケートを行っていただきました。主だったアンケート結果につきまして、説明のほうをさせていただきますと思います。

まず 7 ページをご覧ください。7 ページでは、弥富市の印象など、弥富市への愛着ということにつきましてです。下の円グラフを見ていただくと分かりますように、弥富市への愛着につきましては、「愛着を感じている」という方が 31.8%。「どちらかといえば愛着を感じている」が 39%になっておって、約 7 割程度の方が弥富市に愛着を感じているという回答が得られております。

続きましては、9 ページをご覧ください。問 10 としまして「弥富市を住みやすい町だと思いますか」という問いにつきまして、円グラフを見ていただきますと、弥富市への住みやすさについては「普通」という方が 32%おみえになります。「住みやすい」というのと、「どちらかといえば住みやすい」という回答を合わせますと、52.4%となりまして、約半数の方が弥富市を住みやすいと評価しております。

続きまして、11 ページをご覧ください。こちらは、今後の弥富市への定住意向について聞いております。「今後も弥富市に住み続けたいですか」ということで、円グラフを見ていただきますと、「住み続けたい」という方が 35%、「どちらかといえば住み続けたい」が 34.4%ということで、約 7 割程度の方が、今後も弥富市に住み続けたいという意向を持ってみえます。

続きまして、14 ページをご覧ください。こちらは、先ほどの問 11 で「住み続けたい」、または「どちらかといえば住み続けたい」と回答した方で、その理由を聞いております。この棒グラフを見ていただきますと、回答の

高いものから、上から記載されておりまして、弥富市に住み続けたい理由として、「日常の買い物が便利だから」ですとか、「道路状況や交通の便がいいから」が群を抜いて高くなっており、48%強という回答になっております。

続きまして、16 ページの 6 をご覧ください。先ほどの問 11 です。「できれば転出したい」、または「すぐにでも転出したい」という回答の方に、その理由を聞いております。これも棒グラフのところを見ていただきますと、転出したい主な理由として、「道路状況や交通の便が悪いから」が 40.1%。それに次いで、「日常の買い物が不便だから」が 34%ということになっております。これを見ていただくと、恐らく気付かれるかと思いますが、先ほどの住み続けたい理由と順位は違うものの、「日常の買い物が便利だから」と「道路状況や交通の便がいいから」というのが上位 2 つにきております。この理由に関しては、今日お配りした A3 横長の問 12 の 1、オレンジ色のセルで色が付けてありますが、そこにありますように、この表の下側、居住小学校区を見ていただきますと、まず「住み続けたい理由は何ですか」ということで、先ほどの、道路状況や交通の便がいいから、日常の買い物が便利だからという、この表の下を見ていただくと、やはり数字が高いところが、弥生学区とか桜学区、白鳥学区、やはり駅に近い、中心市街地に近い方が、やはり弥富市に住み続けたい理由がいいというのが、道路状況、日常の買い物が不便だからというような原因になっております。

その次のページを見ていただきますと、「転出したい主な理由は何ですか」ということで、またこれも、「道路状況や交通の便が悪いから」、「日常の買い物が不便だから」という項目に対して、居住小学校区の欄を見ていただきますと、特に栄南学区、大藤学区、十四山東部、西部の方の回答が多くなっております。地域性によって、住み続けたいですとか、転出したいという理由が、地域、学区によるものだということが言えます。ということで、地域性が回答の理由ではないかということが読み取れます。

続きまして、18 ページをご覧ください。(3)、まちづくりの取り組みの評価ということで、弥富市のまちづくりの取り組みについて、総合的にどのように思われますかということです。円グラフをご覧ください。こちらは、弥富のまちづくりの取り組みに対する評価。「普通」が 56.2%と過半数を占めております。「満足」ですとか「どちらかといえば満足」を選択した人が 19.9%と約 2 割。「どちらかといえば不満」、または「不満」と答えた方も 19.1%と、約 2 割の方が回答をしております。今後の計画におきましては、当然、この「不満」とか「どちらかといえば不満」、合わせていけば、「普通」という方にも、「満足」という回答をしていただけるような計画策定、まちづくりの政策立案が必要になってくるかということで頑張ります。

続きまして、23 ページをご覧ください。こちらはアンケート、日常的な行動ということで、「災害時の避難路、避難場所を知っていますか」という問いに対しまして、この棒グラフの全体というところを見ていただきますと、「知らない」という方が 22.4%もおみえになりました。こういった方をどう減らしていくかというのを、今度の計画に盛り込んでいくものになってくるかと思っております。

24 ページをご覧ください。こちらでも防災に関することですが、「この 1 年間で防火、防災訓練に参加しましたか」ということで、全体の棒グラフです。グレーのところを見ていただくと、72.4%の方が参加してないということです。こういった方をいかに減らしていくかということが課題になってこようかと思っております。

26 ページをご覧ください。身近な地域での見守り、支え合いなど、地域

福祉活動に参加していますかという問いになっております。これも全体の棒グラフを見ていただきますと、「参加していない」が 79.6%ということで、8割近くの方がそういった活動をしてみえないということで、こういった方を如何に減らすかも、また今後の課題になってこようかと思えます。

続きまして、30 ページをご覧ください。「市のホームページは見たことがありますか」という問いになっております。これも、全体の棒グラフを見ていただきますと、右側のグレー、「見たことがない」方が 43.9%と、意外に多いことが分かります。市から、いくら細かい、詳しい情報発信をしても、見たことがないってことでは折角の情報も無駄になってしまいますので、こういった状況の解決ということが、今後の計画には必要になってくるかということになります。

32 ページをご覧ください。こちらは、生活の中で不安に思うことについて質問しております。皆さん不安に思ってみえることは、断トツ多いのが 78.4%で国民健康保険、年金などの社会保障が心配ですと。その次は、63.2%で大規模地震などの災害対策。その次が病院や福祉施設と続いております。

隣のページをご覧ください。こちらは、市民の方の地域社会活動への参加状況について尋ねております。こちらは、コミュニティ活動、ボランティア活動への参加状況や今後の動向としては「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」というのが 50.7%で、こういった方をいかに少なくしていくかということも課題になってこようかと思えます。

続きまして、35 ページをご覧ください。ここが肝になるところですけれども、5 番、市政に対する評価です。まず (1)、市の各施策に対する満足度を聞いております。市の各施策は、6 分野、53 項目にわたっておりまして、項目ごとに 5 段階で評価しております。「満足」の回答には 10 点、「どちらかといえば満足」には 5 点、「どちらともいえない」がゼロ、「どちらかといえば不満足」がマイナス 5、「不満足」の回答はマイナス 10 ということで、加重平均値の算出をしてデータ化したものが 38 ページになります。38 ページですけれども、まず、先ほど申しましたように、一番左側の列が 6 分野。都市基盤分野から始まり、生活環境分野などで、6 番、人権、協働、行財政分野という 6 分野で、その隣が項目になります。これは 53 項目あります。これについての満足、不満足を聞いております。

まず、「満足」という答えが多かった分野としましては、真ん中にあります 3、保健、医療、福祉分野。ここの黒の棒が長くなっておりますけれども、こちらが満足と感じたのが、各種健診など、保健サービスの充実、乳幼児等医療費助成などの福祉医療サービスの充実、地域医療の充実、医療施設整備、救急医療体制。これについて、市民の方は満足というようなことの回答が多くなっております。

「不満足」っていうところが次に出てくるんですけども、こちらで多いのは、1 番、都市基盤分野ですね。コミュニティバス、交通網の整備が、マイナス 2.1 ポイント。続いて、その上になりますけれども、駅や市役所周辺の整備、マイナス 1.05 ポイント。3 番目に多いのが、5 番の産業分野ですね。観光の振興。こちらがワースト 3 ということになっております。先ほどのコミュニティバス、交通網の整備、ここは、マイナス 2.10 なんですけども、弥富市、これ、5 学区での集計もしておるんですけども、この次のページから、弥生小学校から桜小学校ということで、各学区の分析をしております。42 ページをご覧くださいと、栄南小学校区、こちらコミュニティ交通網の整備、これが、グレーが全体なんですけども、全体よりも倍以上も不満ということで、これも地域性の回答の傾向がありますので、南部地区の方はコミュニティバスの整備について、不満を多く抱

いているというようなことが読み取れます。先ほどの 3、保健、医療、福祉分野の満足っていうところは、特に学区ごと、地域性はうかがえませんでした。

続きまして、47 ページをご覧ください。今度は、先ほどの市の各施策、6 分野 53 項目につきまして、市の各施策に対する、今度は重要度について 5 段階で回答をしていただいております。評価点の方法は、先ほどの満足度と同じようになっておりますので、その表を 49 ページのほうで記載しております。

1 ページめくってください。今度は、先ほどの 6 分野、53 項目について、重要度をグラフ化しております。1 番関心が多いところは、2、生活環境分野の災害対策、地震、風水害等の充実です。2 番目としては、その下、防犯対策の充実、5.99。3 番目がその 2 つ上、消防態勢、火災、救急等の充実ということで、この 3 つの項目が重要であるということになっております。

続きまして、58 ページをご覧ください。こちらは、先ほどの市民の方の満足度と重要度の相関を示した図になります。この右ページのグラフは、左上の満足評価、最低、重要度評価、最高に近づくほど優先度が高くなります。右下の満足度評価、最高、重要度評価、最低に近づくほど優先度が低くなるという図になっています。この黒い四角い点を表にいたしますと、こちら左側、オレンジですね、こちらが、優先度が高い項目、右側、青いほうが、優先度が低い項目ということで、53 項目を振り分けております。

優先度が高いというものには、2 の 11 番。災害対策の充実。2 番目として、駅や市役所周辺の整備。3 番目として、防犯対策の充実。4 番目としてコミュニティバス、交通網の整備云々ということで、優先度が示されております。

逆に低いほうですね。一番下から言いますと、1 番優先度が低いと答えられたのは、墓地、火葬場の整備充実。ワースト 2 が、文化財の保存、活用。ワースト 3 番目が、生涯学習活動の充実。その上がスポーツ活動の振興ということが、優先順位としては低いだろうという答えが出ております。

続いて、60 ページをご覧ください。ここからは、これからのまちづくりについて聞いております。弥富市の将来のイメージを自由回答で聞きました。この 61 ページ以降が、その記載された内容になります。それをキーワードごとに分けると、この 60 ページの下表になります。一番回答が多かったのは、4、「思いやりのある町」という分類になりまして、キーワードとしては、「優しい」、「つながり」、「協力」、「助け合い」などが挙がっております。2 番目に多かったのが、2 の「魅力や活力の町」、「楽しい」、「笑顔」、「元気」、「明るい」などというキーワードになっております。さきほどののが、3 番目ですね。2 番目としましては、住みやすい町。「住みやすい、暮らしやすい」というキーワードが挙がっております。

次に、70 ページをご覧ください。こちらは「もしあなたが弥富市の市長になったら、どのようなマニフェストを掲げたいですか」という質問になっております。1 番多かったものから説明させていただきますと、住環境の整備による、快適で暮らしやすい環境づくりが 19.5%と 1 番高く、防災、防犯、交通安全対策による安全・安心なまちづくりが 13.5%、子育てしやすい環境づくりが 13.4、誰もが元気に暮らせる保健、医療、健康づくりの充実が 11.5%ということになっております。

続きまして、73 ページをご覧ください。(2) として、今後のまちづくりに求めることということ聞いております。「住民参加と協働のまちづくりを進めるために、行政として必要なことは何だと思いませんか」という問いに対して、1 番多かったのが、できるだけ多くの市民の意見や要望を聞く

ための公聴活動の充実。2 番目として、的確、迅速な行政情報の提供、公開のための広報活動の充実。3 番目として、公共施設の整備、管理や、公共サービスの提供への市民および民間の参画、協働を促進する仕組みづくりということが、断トツで3つが飛び抜けた結果になっております。

75 ページをご覧ください。こちらは「弥富市においても行財政改革を推進しているところですが、今後特に進めなければならないことは何ですか」ということを質問しております。1 番多かったのがコミュニティバスの在り方。2 番目としましては、私有地や公共施設などの私有財産の有効活動。3 番目として、議員など特別職の報酬の適正化。3 番目として企業誘致ということが回答されております。

続きまして、77 ページをご覧ください。先ほどの問 21 に関連してきますけれども、「あなたは過去 1 年間に図書館や総合福祉センター、総合社会教育センターなど、誰でも使用することができる公共施設を利用しましたか」ということですが、「ほとんど利用しなかった」のが 46.5%ということです。また、「今後の公共施設の整備について、どのように進めていくべきですか」という問いに関しましては、「今後の公共施設の整備の進め方は、公共施設の役割や効果を検討して、市民ニーズや財政状況に見合った内容に減らす」という回答が 67%ということで、全体の 7 割っていうことになっております。

続きまして、79 ページをご覧ください。これも先ほどの問 23 に関連した問いになるんですけども、公共施設の新設や更新には、更なるコスト縮減や財源確保に向けた新たな取り組みが必要になりますということで、どのように進めていくべきですかということですが、1 番多かったのが、よく似た機能やあまり利用されていない機能を統廃合すること、新設、維持、更新費用を削減するということで、72.7%の方が財源確保に向けた取り組みについて回答してみえます。

次、80 ページをご覧ください。こちらからは、自由記載欄を設けまして、各分野に対する意見をいただいております。本来ならば全部紹介させていただくところですが、時間の都合上、少々割愛させていただきます。先ほどの 6 分野に対して、点数でなく、どれだけ皆さん、どの分野に関心があるかということだけ話をさせていただきますと、1 番の都市基盤分野が 135 件、生活環境分野が 117 件、3 の保健、医療、福祉分野が 61 件、教育、文化、スポーツ分野が 46 件、産業分野は 97 件、人権、協働、行財政分野が 113 件ということで、都市基盤分野ですとか、生活環境分野、人権、協働、行財政分野が、皆さんご意見を多く出している分野になります。一般のアンケート結果は以上になります。

資料 2 の 2、中学生アンケートをご覧ください。こちらは、夏休みの期間中に、市内の 2 年生全員、415 名を対象にアンケートを行いました。96.9% の回答を得ております。

まず 3 ページをご覧ください。住みやすさ。「あなたは弥富市を住みやすいまちだと思いますか」という問いに対しましては、約 6 割近くの方、29.9%、29.1%の 6 割の方が住みやすい町ということで、先ほどの一般の方と同じように、さっきの一般のほうは、住みやすいと答えた方が 5 割強でしたので、中学生の方はもう少し住みやすいというふうに思ってみえるようです。

9 ページをご覧ください。こちらは、弥富市を今以上魅力あるまちにするため、期待するもの、できて欲しいものについて自由記載欄を設けさせていただきました。この分類の 5 番、4 番ですね。買い物の利便性、イベント・遊び場所、こちらの意見数がそれぞれ 127 件と 117 件ということで、他とは群を抜いた意見数となっております。

次に 15 ページをご覧ください。3、これからのまちづくりについて、アンケート、自由記載していただいております。こちらは、先ほどの大人とは違って、1 番多かったのが、自然が豊かな町、自然、緑、水などについて 64 の意見をいただいております。

あと、22 ページをご覧ください。問 8、先ほどの一般でもありましたように、「もしあなたが弥富市の市長になったら、どんなマニフェストを掲げたいですか」ということで、1 番目が防災、防犯、交通安全対策による安全・安心なまちづくり。住環境の整備による快適で暮らしやすい環境。3 番目は子育てしやすい環境。これもお気づきかと思えますけれども、一般のアンケートと同じように、順位は違うものの、内訳は同じ内容になっておりますので、皆さん考えてみえることは、中学生でも大人でも、一緒のことを考えているのなというのが読み取れます。以上でアンケート結果の説明は終わらせていただきます。

続いて、簡単に、報告事項の資料の 3、こちらは、現行計画、第 1 次総合計画の進捗状況の評価等一覧表ということで、まとめてあります。表の見方としましては、主要施策に対するこれまでの成果ですとか達成状況、今後の課題となった新たな取り組みの方向性、優先度を各課にフィードバックし、過去 5 年間の状況を報告。さらに作業部会等で取りまとめたいて、回答としております。

見方として、達成状況につきましては A、B、C、D の 4 段階。A は「十分に達成できている」、B は「まあまあ達成できている」、C、「あまり達成できていない」、D、「ほとんど達成できていない」。ですので、本日につきましては、主要施策の達成度が C と D、これについて紹介させていただきます。まず表紙をめくっていただきます。これらが各主要施策についての評価になっております。まず第 1 章。定住と交流、活力を生む弥富。こちらの表でいくと、一番下の施策項目 3、住宅施策の推進、②建築物の耐震診断および改修の支援、これが達成度 C になっております。

次をめくっていただきますと、同じく第 1 章で、4、道路交通網の充実。①、地域高規格道路の整備促進が達成度 D。2、国、県道の整備促進が D。ずっと下に降りていただいて、6、鉄道駅、周辺環境の充実が C。右のページへ移っていただきますと、港湾地域の整備促進ということで、③、ポートアイランドでの対応ということが D となっております。

次のページをめくっていただきますと、第 2 章、快適で安全・安心、弥富。まず施策項目、環境自治体の形成ということで、①、環境自治体の形成に向けた指針の策定、これが達成度 D。②、庁舎内における地球温暖化対策の推進、D。4、自然環境、景観の保全、C。7、美しい環境づくり、D。次のページをめくっていただきますと、右側ですね。施策項目 5、公園緑地の整備、公園緑地の整備に関する指針の策定が達成度 D となっております。

4 枚めくっていただきますと、5、障害者支援の充実。⑤として、住環境の整備が C という達成状況。

2 ページめくっていただきますと、第 4 章、人が輝き文化が薫る弥富というところで、施策項目 3 番、スポーツの振興。①、スポーツに関する指針の策定が達成度 D。その右のページで、4、文化芸術の振興、⑤が市出身の文化人の顕彰、C。5 番、青少年の健全育成についてが、①、青少年健全育成体制の充実が達成度 C。②、健全な社会環境づくりが C。

続きまして、次のページ。第 5 章、豊かで活力に満ちた弥富ということで、施策項目 1、農水産業の振興ということで⑤、農産物等直売施設の整備検討が D、7、農業の 6 次産業化の研究推進が C。

2 ページめくっていただきます。最後、第 6 章になります。共につくる、

自立した弥富。施策項目 1、男女共同参画の促進で、主要施策②の雇用分野における男女共同参画の促進とワークライフバランスの推進が達成度 C。一番下の欄で、3、コミュニティの育成、①、コミュニティ意識の啓発とリーダーの育成が達成度 C。

次のページをめくっていただきますと、施策項目 4、市民と行政との協働のまちづくりの推進ということで、①、主要施策、市民参画、協働に関する指針の制定が D。④、NPO 等の育成、支援が D ということで、C と D のほうを簡単に主要施策ごとに説明させていただきました。

本日お配りしました資料 3 の 1、A4 版の 1 枚をお出しいただきたいと思えます。タイトルは「第 1 次総合計画後期基本計画施策評価結果について」、六角形の図状に表示しています。

それでは、資料 3 の 1、「第 1 次総合計画後期基本計画施策評価結果について」ということで、先ほどの主要施策について、政策項目別ですとか、政策分野別で評価をしております。

まず、2、施策項目別の評価結果というところをご覧ください。先ほども、定住と交流、活力を生む弥富、都市整備という 1 番の項目に対して、C と D を説明させていただきましたが、ここの施策項目の中で達成度が低かったところですね、この六角形で凹んだところになります。ここで言うと、6、港湾地域の整備促進が、達成度が 58.3 点ということになっております。多かったのが、市街地の整備が 100 点。(2)、快適で安全・安心な弥富。生活環境につきましては、凹んでいるところ、1 の環境自治体の形成が 50 点。逆に、100 点のところ、2、3 の上下水道の充実、7 の消防防災の充実が 100 点ということになります。

次、2 ページをご覧ください。今度は、第 3 章の健やかで優しい弥富。保健、医療、福祉についてです。ここでは、高齢者支援の充実が 100 点になっております。あとは 70 点から 80 点台を推移しております。

第 4 章、人が輝き文化が薫る弥富。教育、文化、スポーツについてですけども、ここは円がちょっと小さくなっておりまして、一番低いところが、6 の国際化、交流活動の推進が 58.3。それ以外、1 番の学校教育の充実が 75 点、生涯学習社会の形成が 75、スポーツ振興が 65 点、文化芸術の振興が 70 点、青少年の健全育成が 60 点と、全体的に円がちょっと小さくなっておるのがここの分野の特徴になります。

第 5 章、豊かで活力に満ちた弥富。産業につきましてはですけども、こちらは、1、農林水産の振興。66.7 点という達成度で、それ以外は評価が 100 点ということになっています。

第 6 章としまして、共につくる自立した弥富。人権、協働、行財政につきましては、これも円がいびつになっていますけれども、特に低いところについては、3、コミュニティの育成が 62.5。4、市民と行政との協働のまちづくりの推進が 50 点ということで、ここの部分の達成度が低くなっております。

もう一度、表紙に戻っていただきます。先ほどの 6 つ、第 6 章についてですね。それをもう一段階上の部分で評価をしていきます。政策分野の評価ということになります。先ほどの 1 から 6 の分野につきまして、低いところだけ紹介しますと、4、人が輝き文化が薫る弥富。教育、文化、スポーツが 68.3。6 章、共につくる自立した弥富。人権、協働、行財政。こちらが 67.9 ということで、60 点台が 2 つあります。ちょっとこのあたりが、達成状況が低かったという結果となっております。

長くなりましたけれども、資料 1 から 3 までについてご説明させていただきました。ありがとうございました。

釜田会長

ありがとうございました。只今の事務局からの報告について、委員の皆さん、ご意見、質問等はございませんでしょうか。はい、佐藤さん、どうぞ。

佐藤委員

前回の資料を読み返したところ、第1章の「計画の策定にあたって」として、市民の目線を重視した一層分かりやすい計画とありますが、これは単なる言葉遣いの、表記上のことでなく、構成と論理の展開、共感できる内容に深化させていくこと、中学生、転入した市民、自治会等の役員、市役所の新規採用職員、職場を異動して職務が変わった担当職員などが、論理的に納得できて、共感できる、すっきりと頭と体に入ってくるような新総合計画報告書でなくてはなりません。ここからですけれども、先程の説明のところで、4点申し上げさせていただきます。

第2章、計画策定の背景等について。資料を2日間精読させていただきました。頭痛くなりました。総合計画策定の前提となる現状分析の根拠として、コンサルタントが各種政府公開資料、統計等に妙に細かく分析した努力だけは分かりますが、弥富市民としては共感できない。行政マンとして見ても、説得力はないと思います。

また、各種資料が取りやすいつてことなのか、何を落とすどころとして採用しているのかがさっぱり読めませんでした。弥富市の各課の中核となる職員が、現行の総合計画を振り返って、課題とそれを裏付ける数字や根拠となる事象を集約して、それをコンサルが清書する形でしか、課題の集約はあり得ないと思います。

2点目です。市民アンケートについて、コンサルさんが妙に細かい私見を述べてらっしゃいますが、肝心なのは、これから何を補っていくかということです。38ページを、ちょっとすいません、見ていただきたいんですが、市に対する評価をご覧ください。一見不満足の数少なそうに見えますが、53項目中、マイナス評価が16項目の約3割。民間だったらのけぞるような数字ですけども、「どちらともいえない」というのは、民間では、要は会社が支持されてないというふうに考えるべきなので、評価数値が1未満の27項目を足すと、8割が満足されてないということです。

肝心なのは、その原因です。共通として言えるのは、市民、NPO、民間企業が協力、または主体となって動かなければ実現できない項目だと思えます。

3点目です。次に、市の、市役所内部評価達成状況を見ていただきますと、約150項目ぐらいあるんですけども、D評価が11、C評価が13項目、合わせて24項目。これは、約15%です。行政自らC、D評価を付けるっていうのは、それなりの覚悟があると思います。ある意味、これを付けた課というのは真面目に仕事をしているなと思います。

要は、国や県など上部団体がやってくれないからできないよ、予算がないよというものと、最後のページが象徴しているんですけども、市民や民間企業、NPOなどの協力がないと実現しない項目に集中していると思えます。

最後に提案なんですけれども、市民の活用については、ワークショップ4回ありましたけども、それぞれ意識の高い方が積極的に参加されて、自主的な交流会まで生まれつつある中で、単なるキーワードの、アイデアのつまみ食いだけでは、かえって反発を招きかねません。そもそも、弥富市に関するデータベースを十分提供せずに短期間にまとめたものとしては、よくやられたなというふうに参加者に敬意を表しますけども、今回のアンケート結果を提示して、それを元にアンケート評価のワークショップを開くことを求めたいと思います。

例えば、市民アンケート7ページの最後の2行をちょっと見ていただきたいんですが。ここには、私、のけぞっちゃったんですけど、一方で、「どちらかといえば愛着を感じていない」、または「愛着を感じていない」と答えた人の割合が最も高いのは、十四山東部小学校区とされています。十四山の人が見たら、どう思われるでしょうか。何故そうなったかということについて、市民ワークショップでいろいろ調べてもらう価値がある部分だと、象徴的に思ったので、取り上げさせていただきました。私、弥生学区なんですけども、むしろ栄南とか、大藤とか、十四山地区のほうが地元の行事にかなり密度が高く、逆に日の出学区のような新興住宅よりも、いわゆる旧鍋田、旧十四山の郷土愛が強いと思われまますので、この表現は、まさに根拠のない思い込み分析の一例だと思います。

いま一度、この弥富市の現状を市民の目から見てみる必要があると思います。ワークショップの参加者の言動を見てみると、あれも欲しい、これも欲しい、あとは行政任せというようなことではないように思います。自分たちが汗をかき、行政と科学的な情報を相互に理解することによって、まちを考えていこうという真摯な態度が見て取れましたので、総合計画の入り口であり土台である、市民から見た過去の総合計画の評価、つまりアンケートの評価は、市民参加によってまとめ直す必要があると思います。以上です。

釜田会長

ありがとうございました。今の佐藤委員のご意見、ご発言に関して、何かございますでしょうか。市長さん、どうぞ。

服部市長

佐藤さん、本当に、アンケート調査とか、いろんな資料に対して精読いただきまして、ありがとうございます。私の反省するところですけども、中身について精読していない、というようなところもありますので、言えませんが、4番目に言われました、今回のアンケート結果を提示して、それをワークショップを開くというようなことについて、これはやっぱり、まず私たち庁舎間の中で、今回のこの資料に基づいて、一度職員の段階で協議をしていきたいなというふうに思っています。その段階を踏まえて、次の段階をどうするかということにつきましては、また考えていきたいというふうに思っておりますので、まず職員が今回のこのアンケートについての共通の認識を得るということが、私は必要だろうというふうに思っていますので、ご意見として承っておきます。ありがとうございます。

釜田会長

ありがとうございました。それでは、他にご意見ございませんでしょうか。

それでは、ちょっと私からも、佐藤さんがお話しになってた中の1つになるかと思うんですけども、同様なことをちょっと感じまして、資料の3、現行計画の評価なんですけれども。これに関して、まずは成果指標。成果指標というのが示されている項目も、かなりあると思うんですね。しかし、その成果指標、そこには当然、具体的な目標値などが明記されているわけなんですけれども、そこについて、この一覧表の中で、必ずしも触れられていないものもたくさん見受けられるということで、この成果指標に関して、やはりもう少し明確に示したほうがいいのかなというふうに思ったわけなんですけれども。その成果指標の取り扱いに関して、事務局側で少しご説明いただけないでしょうか。

事務局(横井)

この資料ですね。

釜田会長	第1次総合計画のですね。成果指標ですね。例えば、こういうのは示されているわけなんですけど、第1章、定住と交流、活力を生む弥富の、下項目の2の市街地の整備の、②の市街地の計画的整備。ここで、市街化区域面積っていうのが1,100ヘクタールになりましたと。これは確かに、この成果目標を達成しているっていうことになるわけですよ。
事務局(横井)	そうですね。ここにあります。
釜田会長	だから入れたっていうのは非常に分かりやすいわけですよ。そういった成果指標っていうのは、かなりいろんなところで設定されているはずだと思うんですけども、今指摘させていただいた項目みたいに、明示的に触れられていないものも沢山あって、折角設定している訳ですから、その数値に基づいて、それを上回っているからAだとか、まあまあいいところまで行ってるけど、残念ながら達成はできなかったからBだとか、そういう、折角あるんですから、客観的な評価に活かせるんじゃないのかなというふうに思ったんですけど。
事務局(横井)	先ほどの先生のお話で、事務局から補足させていただきますと、今回のこの達成状況につきましては、基本構想の部分で、政策目標、施策目標に対する、全体の施策に対しての達成度でありまして、細かい事業、実施計画に出てくるような実施事業に対しましては、別の評価で、実施計画のほうの成果指標っていうことで、各事業に対する個別の、例えば、道路であれば、5年間で延長10キロ延ばすとか、そういう成果指標を立ててますので、それに対する達成度の評価は、今、コンサルさんのほうに調査を掛けている最中ですので、実施計画に対する、これは施策ですとか政策に対する全体の評価ですから、細かい各事業に関しては、次回までにお出しできるかと思えます。
釜田会長	分かりました。
事務局(横井)	それは、担当課のほうが出せますので。
釜田会長	毎年、事業評価は行っているわけで、逆に、そっからの積み上げで、基本目標の評価っていうのもなされるべきかとは思いますが、また次回、までにさらにご検討いただければと思います。 その他、横井さんからご報告いただきました各資料に関して。はい、林さん。
林委員	先ほどの、すいません、質問が集中して申し訳ないんですけども、施策評価結果の達成度の話なんですけれども、これは内部だけの評価なのか、この後に何か外部委員会があって、外部評価を受けた後の結果なのか、どちらなのでしょう。
事務局	これは内部評価のみです。
林委員	内部のみということですね。今のお話も、私自身も理解はできる部分もあるんですが、実際にこれで、100点と出ているところが、本当にこれ、100点なのというのを、多分皆さんそう思われているでしょうし、市民の方が見られたときに、例えば、市街地の整備だったり、防災だったり、さっきのアンケートだと、「どちらかと言うと、もうちょっとやってよ」みた

いな、そういう項目も含まれてて、ちょっと点数の出し方難しいんですけども、何かずれてるんじゃないかなと思いました。佐藤さんもそうだったんですけども。やっぱりそんなところが、これが、例えば、「達成度100点であれば優先順位は後にしよう」みたいな話にされると、それは違うのでは？というような印象をどうしても受けがちなんですね。

先ほどちょっと佐藤さんからありましたけれども、どちらかといえば、低めに付けたところは厳しく見ていられるのかな、という印象はやっぱりあるんですけども、「100点満点は本当ですか」みたいなことを、市民に投げかけたら、本当にそれ、賛成する方何人いるのかというような気がしますので、もう少し、この出し方で本当にいいのかなっていうのがすごく思いますし、実感としても、本当にこれって100点満点で喜べるのかなっていうのがですね。事業に対する達成度なので、必ずしもそこにリンクしない部分は多いとは思うんですけども、ただ、これを見せられて、じゃあ本当にそうですかとも言われると、「うーん」というような形になってしまうので、これからの基本構想とか、こういった重要なことにも繋がっていく話になるかと思しますので、もうちょっと、この出し方だけでは不十分なのではないかというふうには感じております。

事務局(横井)

よろしいですか。事務局から。林委員のご質問を受けたご意見に対して。私のほうはちょっと説明をはしょった部分がありまして、当然、100点が付くと、もう何もしなくて満足でいいんじゃないかというようなご説明だったんですけども、この成果指標の見方としまして、今度、先ほど見ていただいた、これまでの実質的内容や成果(26~30年度)達成状況の隣の欄を見ていただきますと、これから第2次総合計画を策定してく上での、今後の施策、主要施策に対する今後の課題と新たな取り組みの方向性を出しております、いくらAが付いても、この先まだ今後の課題というものとか、新たに取組まなきゃいけないっていうことが、今後の目標になってまいります。

それに伴いまして、優先度、行政全てのことなかなかやれるわけじゃありませんので、優先度を付けて、優先度の高いところから事業実施をしていきたいということで、優先度の状況と今後の課題、新たな取り組みの方向性というのを一応記載はさせていただいております。

林委員

ですので、ほんとはこれだけではなくて、じゃあ今後どうしたいのかということ。佐藤さんの繰り返しになるんですけど、そっちが重要なんで。こっちよりもそっちを出して欲しかったなという、そういう感想です。

事務局(横井)

ありがとうございます。

釜田会長

市民アンケートに関しては、2点あるかと思うんですけども、まずその評価の仕方の問題ですよね。佐藤さんや林さんがおっしゃっていたとおり、そもそも行政が行うべきなのか、市民が行うべきなのかということもありますし、それは市長さんのほうで今後またご検討いただけることでした。

もう1つは、その評価を今度、次の総合計画にどのように反映させるかということで、これはこの後の協議事項の中でも、きっと触れられるのかなと思うんですけども、その評価と、それが具体的にその評価から直接的にどのように、その基本構想なりに結び付けられるのかっていうところを明確にしないと、やはりなかなか分かりやすいものにはならないかなと思いますので、その辺についてもご検討いただければと思います。

市長さん、すいません、どうぞ。

服部市長

あと1年で第1次総合計画が終わりまして、今、後期計画の、来年が最終年度になる、5年目になります。それぞれの評価につきましては、市民の皆さんの判断と同時に、議会の議員の皆さんの、やはり市民代表というか、そういったような評価というのも非常に重要視せざるを得ないというふうに思っております。そういったことが、それぞれの委員会であるとか、あるいは一般質問という形の中で、これから出てこようかなというふうに、私自身は予測しているわけですね。

そういうことを、第2次の総合計画の中に、行政としてどう活かしていくんだということが、議会のほうからの意見というのも、私としてはしっかりと注視しなきゃならないというふうに思っております。

この100%ということは、私としても、あり得ないなということで、結果としての取り方も、やはり先ほどお話をいただいたように、少し考えていかなきゃならない。100%としてはあり得ない。それは継続事業としてずっとやってきておるし、またこれからもやっていかなきゃならないというところの中においても、100点というのはどういう到達点か、私自身が理解していないところです。そんなようなことで、もう少し後期の基本計画に対する評価ということについては、総合的に見たいというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

釜田会長

ありがとうございました。

入江委員

今の評価の点についてなんですけれども、この資料の3を拝見して、先ほどの事務局の方のご説明によりますと、これは全体の施策に対する評価であって、各事業についての個別業務、実施計画の個別評価はできていないというご説明でしたが、本来であれば、年度ごとの評価が積み上がって、この施策の評価っていうことにつながり、それが総合計画全体の評価という事に積み上がっていくべきだと思うんですね。今回、この評価一覧表、拝見しましたけれども、これだけでは私、ちょっと判断が付かない。根拠として何も見えないというふうに、率直に感じました。

ですので、今後、この第2次総合計画を本当に実行性のあるものにするためには、是非年度ごとの評価の仕組みと総合計画とをリンクを付けるということをしていただきたいと思っております。職員の方々は、日々のお仕事をまい進されている中で、やはり実施計画ということは念頭にあってお仕事されていると思うんですけれども、この総合計画の、こういった施策別の評価が、今回、ここと切り離されて、日々の仕事とは切り離されたところでの評価をせよということで、もしそういった指示であったのであれば、それはなかなか実態を伴わない評価になっている可能性もなきにしもあらずというふうに思います。

ですので、これを機に、ぜひ目的と手段の体系ということ、ぜひ確認をしていただいて、日々の業務というものがどこに位置付けられているか、何のためにそれがあのかということ、総合計画の中できちんと位置付けた上での評価をして、それらを積み重ねていく。それが5年、10年積み重なった時点で、どこまで総合計画と比して達成できたかということが初めて言えるのではないかとこのように思います。

年度ごとの事業評価を拝見していませんので、何とも言えないんですけれども、こういったところに照らして評価されるかというのは、今般の評価のトレンドとしましては、数値目標一辺倒ということではなくて、定性的な評価ということもかなり取り入れている傾向もございますので、こうい

った文章表現を全部否定するつもりもございませんけれども。ただ、やはりある程度の指標、目安になる指標というのは要るかなと思います。

それは、先ほど釜田先生もおっしゃったように、例えば、目的が何であるか、それは一般的な指標で言いますと、インプットがそこに幾らつぎ込まれているか、それから、直接的な結果としてのアウトプット。それがどのような効果を生んでいるかというアウトカム。そういった段階ごとの評価というのをすべきであって、この施策の評価というのは、やはりアウトカムの評価になるべきだと思いますので、5年間の事業評価を積み重ねた、アウトプットを積み重ねた先にアウトカムがどこまで達成できているかという観点で、是非評価していただきたいと思います。

そういった仕組みを、今後の、これから皆さんにご議論いただきたいと思いますけれども、第2次総合計画の中にぜひ位置付けていただいて、日々の職員の方の業務の中で、総合計画を常に念頭に置きながら、目的に照らした仕事ができるという仕組みづくりをしていただきたいというふうに思っております。以上です。

釜田会長

ありがとうございました。

評価システムの構築というのは非常に重要なことだと思いますので、第1次の後期の基本目標の評価そのものっていうのも、今、課題としてあるわけですが、第2次で、よりその成果を評価しやすいようなシステムを、そもそも計画の中に組み込むということについても、ぜひ進めていただければなと思います。

それでは、他に、事務局からの報告事項に関して、ご意見等ございませんか。

大西委員

すいません。私、民間なもので、資料見ていて、少し感じたことだけ。今の評価の話、皆さん、先生方言われたみたいですが、1つだけ抜けていたのは、優先度というのを付けられておられると思うので、優先度と結果の乖離、一番ここを見ないといけないところを、優先度Aなのに、CとかDになっているのは何故だろうと。これも評価の基準が、自己評価されているので、客観的なものかどうかという見方もあると思うんですが、自己評価でAのものをCとかDとか付けていらっしゃるというのは、よっぽど何か問題とか、クリアしないといけない課題があると思うんです。そういう目線からも、ちょっとこれを分析いただけたらいいんじゃないかなと。1点だけ付け加えですが。

釜田会長

そうですね。優先度というのは、やっぱり非常に重要な観点になってくるかと思うので、選択と集中という話があります。これは、第2次の総合計画のほうでも、ぜひ考慮をしていただくべきことかなと思いますので。

はい、市長さん。

服部市長

皆さんご承知のように、平成23年、3.11というような状況が、我々行政の自治体の大きな方向転換の一部になったことは、もう紛れもない事実なんですね。それ以来、防災、減災ということが、日本全国の自治体を取り組まざるを得ないというようなことで、財源の配分ということに対しても、やはりそういったようなことが、C、D評価という形の中において、まあ、少し細かく分析しないといけないんですけれども、私どもの、まちとしてはあるということがありますね。

しかし、高齢化社会に対してはしっかりとやっていかなきゃいかん。それはもう義務的な経費という形の中での扶助費を担いますので、責任としていかなきゃならないわけですけども、インフラ整備という形の中での投資が多くなったことは事実かなというふうに思っております。

釜田会長

ありがとうございました。では、報告事項に関して、それ以外にございますでしょうか。ないようでしたら、次第の 3、協議事項に移りたいと思います。

事務局(横井)

4 協議事項

それでは事務局のほうから、第 2 次弥富市総合計画基本構想骨子案について説明させていただきます。

資料の 4 をお出してください。A3 の横長、左のほうで留めてある、ホチキス留めの資料になります。よろしいでしょうか。

それでは、この第 2 次の基本構想につきましては、1 ページ目にありますように、初めに、計画序論と、2 枚目にある、2 ページ目にあります基本構想本編で構成してまいりたいと考えております。

まず、基本構想の本編の前に、「初めに」ということで、計画序論を。ここにありますが、グレーのところにありますように、3 章立てで構成してまいりたいと考えております。

まず第 1 章としましては、計画策定に当たって。2 章、計画策定の背景等。3 章、まちづくりの課題認識についてとさせていただきます。

まず最初の 1 つ目。第 1 章、計画に当たって、でありますけれども、こちらに書いてます、この第 1 章の枠に書いてますことは、前回、8 月 25 日、第 1 回審議会のときに事務局からお出ししました、第 2 次弥富市総合計画の策定方針を基本として記載をさせていただきます。

1 つ目のひし形ですね。策定の目的につきまして、ここでは記載しております。端的に申し上げますと、現行計画は平成 30 年度をもって終了しますので、平成 31 年度を初年度とする第 2 次弥富市総合計画を策定し、総合的、計画的なまちづくりの指針とするものであります。

その下のひし形、2 つ目として、位置付けについてです。第 2 次総合計画についても、第 1 次計画と同様に、市全体および各分野の今後の方向性を示すものであり、市民と行政との共通目的、目標となると共に、全ての行政活動の基本となります。その重要性は変わるものでもないということの認識から、今後とも、市の最上位計画として位置付けてまいりますということあります。

右側に移ります。3 つ目といたしまして、計画の構成と期間。こちらもご存じのように、基本構想、基本計画、実施計画で構成してまいります。基本構想につきましては、10 年間、基本計画に関しましては、前期の部分で 5 年間、後期の部分で 5 年間。実施計画につきましては、3 年計画としまして、毎年度見直しをしております。

次、その下に、4 つ目として、第 2 次総合計画策定の基本的な考え方ということで示してあります。ここには丸で 4 つの項目が立ててあります。前回でもご説明させていただきましたように、基本的な考え方としましては、市民の参画と行政との協働による、市民主体を基本とした計画。2 つ目としましては、弥富らしさを最大限に生かし、明るい未来を築く計画。3 番目としましては、一層効果的な経営と成果の点検、評価が行える計画。4 つ目として、市民の目線を重視した、一層分かりやすい計画ということあります。

詳細の説明につきましては、ここには記載しておりませんが、1

つ目の市民の参画と行政との協働による、市民主体を基本とした計画につきましては、策定段階から効果的な市民参画、協働の取り組みを行いますと共に、計画の策定後も、市民と職員が主体的に参加しまして、市民の方が主役となって行政運営に参加できるよう、市民の主体的な参画と熟議に根差した計画というふうに考えております。

2番目が、弥富らしさを最大限に生かし、明るい未来を築く計画というところですが、ここにつきましては、地域特性、資源を最大限に生かしまして、弥富市で住み続けたい、子どもを産み育てたいと思われる、選ばれる町の実現を目指したものにしていきます。

3番目としましては、一層効率的な経営と成果の点検、評価が行われる計画ということで、先ほど釜田先生がおっしゃられましたように、選択と集中の視点の下、行財政改革や行政評価との連動性、公共ストックの活用の視点に立ちまして、より一層効率的な行政運営に向けて、また、成果を点検、評価しまして、施策や事業の見直しが行える計画としてまいりたいということを記載してまいりたいと考えております。

次のグレーの2段目、真ん中のとこ、第2章ですね。ここについて説明をさせていただきます。ここでは、一番左っかわに、市を取り巻く状況としまして、まず社会情勢。基礎資料にもありましたように、弥富市を取り巻く情勢を記載してまいります。人口減少、高齢社会の到来、地球環境問題の深刻化等々、先ほどの資料で説明しました項目等を記載してまいります。

隣の、弥富市の現況につきまして、こちらも基礎資料を元に、弥富市の位置とか地勢ですとか、人口の状況、町の活力や魅力、市民の参画との行政との協働、共助、弥富市の特長、行財政の状況等を記載してまいりたいと考えております。

真ん中あたり、市民意向等につきましては、アンケート調査、市民ワークショップを書いてございます。こちら、アンケート調査につきましては、先ほど説明させていただきました項目、問いの大まかな段落ごとに基つきまして、弥富市の印象など、日常的な行動、地域、社会活動への参加状況、支援に対する評価、これまでのまちづくりについて、また、あと、自由意見を参考にしながら、まとめてまいりたいと考えております。

続きまして、市民ワークショップにつきまして、まちづくりの提言ということですね。10月と11月に全4回のワークショップを開催させていただいております。まちづくりの提言ということで、それにつきまして、資料、今日お配りした「市民ワークショップ みんなで考えよう弥富の未来まちづくり提言書」。こちらの冊子のほう、簡単に説明させていただきます。

まず表紙をめくっていただきますと、市民ワークショップの概要というピンク色の帯が書いてありまして、目的と役割があります。今回のワークショップにつきましては、公募等による参加者を中心に、38名の方に参加していただきました。そのグループ分けとしましては、現総合計画の6つの柱のテーマごとに班分けをさせていただいております。1班から6班まで、都市整備分野から人権、協働、行財政の班に分かれてグループワークを行っていただきました。

2ページ目では、開催日時と実施内容、10月4日から11月15日までグループワーク。1回目は弥富市の現状、課題の検討。弥富市のいいところ、悪いところをグループで出し合っていて、第2回目で、そのいいところ、悪いところにつきまして、いい点は伸ばし、悪い点は改善、克服するという意見を出し合いながら、グループごとの意見をまとめていただいて、第3回、第4回で取りまとめ、発表を行っております。

5番として、ワークショップの成果としましては、この市民会ですとか、

この下部組織、庁内組織であります本部会議、そういったもので資料として活用をさせていただきます。

続きまして、ページをめくっていただきまして、3 ページから、各グループの活動報告を記載してございます。まず、まちづくり提案ということで、まず1グループ、分野としては都市整備グループ。こちらのグループで、弥富のいいところ、悪いところを拾っていただいて、それに対する提案を、(2)、右側ですね、良いところを伸ばし、悪いところを改善するということでの意見を出していただきながら、次のページ、5 ページ、そういった意見に基づいて、特に重点的に取り組むことを選択していただいたのが、この矢印から下の黄色のところですね、= 枠 = になります。①番、安全・安心の都市基盤づくり。2番が、市民が主体となって避難所ごとの地区防災計画を策定する。

3、住環境、交通、にぎわい、防災などについて、市、民間、役所が協力して、実態を調査するというのに、6 つに絞っていただきました。それを元に、最後にこの都市整備の分野における、今後の弥富市の目指すべき将来像を、フレーズを作っていただきました。この都市整備グループにおきましては、市民が提案する住みよいまちづくりということでの提案をいただいております。

ということで、同じように、第2班、第3班、第4班、第5班、第6班につきましても、同じような取り組みをしております。ですので、ちょっと時間の関係上、特に重点的に取り組むことと、目指す将来像についてだけご紹介させていただきます。

9 ページ、10 ページをご覧ください。こちらは2グループの、生活環境グループの、特に重点的に取り組むことということで、①番、避難場所の見直しと周知徹底があります。生活環境分野の目指す将来像は「安心な町、便利な町、楽しい町、弥富」というフレーズをいただいております。

続きまして、13、14 をご覧ください。こちらは3つ目のグループで、分野としては、保健、医療、福祉になります。特に重点的に取り組むこと。「OK きんちゃん」ということで、具体的困り事ホームページの立ち上げなどです。弥富市の目指す将来像としましては、「心に寄り添う弥富」というフレーズをいただいております。

続きまして、17、18 ページをご覧ください。4グループ目の教育、文化、スポーツについてです。こちらの特に重点的に取り組むことの1番目としましては、スポーツ盛んな町アピールですね。弥富市の目指す将来像としては、「つながる、つなげる弥富」というフレーズをいただきました。

続きまして、21、22 ページをご覧ください。こちらは5グループで、産業分野についてのグループでございます。特に重点的に取り組むことといたしましては、1番目として商店街の活性化、大須のよにということですので。産業分野における弥富市の目指す将来像につきましては、「新産業にテイクオフ、自信に満ちた弥富」ということです。

続きまして、最後の第6グループ。人権、協働、行財政。こちらのグループにつきましては、特に重点的に取り組むことが、25、26 ページに記載がございます。特に重点的に取り組むことというのは、1番目として、行政の人事評価に発信度をプラス。市民も発信力の高い人を評価ということで、市からの情報発信を望む意見ということになっております。ここの分野における弥富市の目指す将来像におきましては、「おしゃれ、つながる、ちよどいい」、こういったフレーズになっております。

ということで、こういった、中身まではちょっと触れませんでした、ここの提言書にあります内容を、基本構想の「初めに」という序論のところで記載をしてまいりたいと考えております。

また A3 の資料 4 にお戻りください。この第 2 章の一番右の欄ですけれども、ひし型、現行計画の進捗（しんちよく）状況につきましてであります。こちらにつきましては、先ほど資料の 3 で説明させていただきました、第 1 次総合計画後期基本計画の政策、施策評価について記載をしております。ですので、先ほどの政策分野別の評価ですとか、施策項目別の評価等々、盛り込んでまいりたいと考えております。

続きまして、一番下の段、第 3 章、まちづくりの課題認識についてでございます。こちらの課題認識につきましては、特に第 2 章の計画策定の背景等を踏まえさせていただきます、ここに記載してあります 5 つの枠、5 つの課題として整備をしております。

1 つ目の枠としましては、安全、安心なまちづくり、防災、減災、復興などへの対応。2 番目としましては、人口減少、高齢社会を踏まえた住み続けられるまちづくりへの対応。

3 番目としましては、町の活力や魅力の創造、強化への対応。4 番目としましては、市民等との協働、共助の仕組みづくりへの対応。5 番目としましては、持続可能な行財政運営の対応という課題認識を、こちらのほうで記載をしております。

続きまして、2 ページ目をご覧ください。ここからが基本構想の本編になります。第 1 編ということで、この第 1 章のまちづくりの将来像について、記載をしております。ここでは、まちづくりの課題認識を踏まえまして、その解決と目標年次、10 年後を見通した弥富市の将来の在り方等を記載をしております。

この枠の一番上のところに大きな字で書いてありますように、これは現行のものは書いてあるんですけれども、次期の将来像は、現行計画の将来像、みんなでつくるきらめく弥富、自然と都市が調和する元気交流空間から、職員の計画策定への参画意識の向上ですとか醸成を図るために、全職員からの提案を踏まえて、第 2 次計画としての新たな将来像を設定をしております。

11 月中に全職員を対象に、このまちづくりの将来像を募集しました。市民アンケートから、一般ですとか中学生のアンケートから、弥富市の将来のキャッチフレーズということで、「優しい」、「つながり」、「協力」、「助け合い」、「住みやすい」、「暮らしやすい」、「楽しい」、「笑顔」、「元気」、「明るい」など、キーワードを 1 つ以上含んで募集をしております。1 月までには庁内で審査をしまして、次回の 3 月の市民会のときには、新しい将来像が皆さまにお示しできるものかと思っております。

続きまして、第 2 章へ移ります。第 2 章、まちづくりの方向性についてです。こちらが、基本構想の目標年次に向けまして、まちづくりの将来フレームを示していきたいと考えております。1 つ目として、基本目標について記載をしておりますが、ここは人口の見通しについて記載をしております。町の活力と規模を維持していくための基本となる人口について、政策的に各取り組みの底上げを図る前提で、弥富市人口ビジョンに基づく目標人口から、第 2 次総合計画の目標年次の値を位置付けるということで、こちらでも目標年次を平成 40 年として、目標の総人口を 4 万 3,000 人というふうに設定をしております。現在よりも 1,300 人弱にはなりますけれども、総合戦略の取り組みを行った上での推計人口を目標値に持ってきております。

続きまして、2 番の将来都市構造につきましてであります。こちらは、市の土地利用の方向性と共に、鉄道、高速道路などの公益的な交通軸と、鉄道駅などの交通結節点を中心に、将来的な町の骨格構造を位置付けますということですね。現行の都市計画、マスタープランの都市構造の考え方を

基本として書いてまいりますけれども、次期の都市計画マスタープランも、総合計画と策定期が重なっております、今年度、来年度で策定してまいりますので、次期の都市計画、マスタープランとの整合性を図りながら、こちらを記載してまいりたいと考えております。

内容としましては、3つほどポイントを挙げさせていただいています。現状の機能や地域の特性を生かした、住、農、工の3つの空間構造を基本。2つ目として、本市の主要な機能、施設が集約したにぎわいのある中心拠点を核とする、利便性の高い定住空間の形成。

3番目として、公益的な交流や産業の活性化に向け、各空間からの全国へ広がる都市間ネットワークの形成ということで、3つをベースに記載してまいりたいと考えております。

第3章、まちづくりの基本目標としましては、次期の将来像の実現に向けまして、まちづくり分野に対応しました6つの政策目標をまた設定しまして、また、政策目標達成に向けての必要な取り組みの在り方を示してまいりたいと思います。具体的には、この表にありますように、政策目標は現行計画の6つを踏襲して、第1章として基本都市基盤。2章として生活環境。3章として保健、医療、福祉。4章として、教育、文化、スポーツ。5章として産業。6章として人権、協働、行財政で構成してまいりたいと考えております。それにぶら下がる施策目標につきましても、原則、現行計画を踏襲した記載といたしますけれども、先ほども、課題、基礎資料ですとか評価、事業の評価等の課題、未達成状況、優先度等を考慮しまして、見直しとか再編、そういったものも考えて、盛り込んでいきたいと思っております。

第4章としまして、構想の推進に向けてということになります。こちらは、先ほどからご意見がありますように、進行管理の実施ですとか、協働と自主自立によるまちづくりの普及実践、行政経営の観点による持続する市政運営の推進という3つの項目でまとめていきたいと考えております。

まず1番目、総合計画の進行管理の実践ということですね。基本計画施策評価、これらの視点、目標、指標の徹底と、進捗管理等の継続をしていくと。あと、委員からもありましたように、外部評価。＝共同の倫理＝に基づく市民評価等の実施。これを推進していきたいということの記載です。

2番目としまして、協働と自主自立によるまちづくりの普及実践ということで、計画策定段階からの市民協働の推進。また、市民、地域、団体等の連携強化、協働によるまちづくりの実践。

3番目としましては、行政経営の観点による持続する市政運営の推進ということで、選択と集中の概念に基づき、施策事業の重点化と着実な実行、また、民間企業等の経営手法の参照による、独自の行政経営の確立ということをうたってまいりたいと考えております。

説明は以上となります。この基本構想、骨子案につきまして、ご審議をお願いしたいと思います。

釜田会長

ありがとうございました。それでは、今、事務局のほうからありました基本構想骨子案についてご審議をお願いしたいと思います。ご意見はございませんでしょうか。佐藤さん、お願いします。

佐藤委員

よろしいでしょうか。まず1ページ目の第3章、課題認識としてということで、現行の総合計画が、全ての事業を網羅的に部門別に並べたのに対して、課題解決型として、切実な課題を絞って点検し、横串を刺すように部門別計画を見直すことは良いと思っております。

例えば、今回、特に防災であったりとか、協働であったりとか、5つの

重要な課題で出てるんですけども、従来での6つのそれぞれの部局が、私、読んでましても、基本構想、基本計画にしても、自分とこの事業の羅列だけで、要は、自分とこの上位省庁の論理で書いてるんですね。だから、例えば、福祉なら福祉で、福祉として防災にどう対応するか、人口減少にどう対応するか、まちの活力に対して福祉がどう対応するか、市民協働に対して福祉でどう対応するのかみたいな、今の従前の6個に対して5つの横串を刺すみたいな構成になっていますので、これはなかなかいいのではないかなと思いますが、問題は、この課題認識を担当課に浸透させ、全ての事業担当課が、この5つの切実な課題に対して、自ら分析し、方向性を出すように持っていくことが重要だと思います。

肝心の本編のほうですけども、特に第4章のところですけども、非常に重要な3項目が挙げられてるんですけども、正直、行政職員を経験した私としては、非常に、行政職員にとって困難な課題だということもよく分かります。ただ、ポイントなんですけども、市の行政職員は、自治法を読んでない方には少々釈迦に説法ですけども、読んでない方のために、念のために言うと、市長は行政の執行機関で、市の職員は補助機関になります。機関、つまり市の職員が行った行為は、全て自治体が行ったことになります。全ての行政職員は市長の代理であり、全ての市民と向かい合ったときに、自分の任された職務について、市長の代弁として自分の言葉で説明責任を果たす覚悟が必要だと思います。なので、やっぱりこれは裏返ってくるんですけども、市民と直接対話するという機会が恐らく少ないということが行政評価でも内向きになるっていうこととリンクしていると思います。

最初の進行管理の実施なんですけど、これ皮肉なんですけども、結局、戦後のどたばたからどんどん職員が使命感と自立性が薄れて、一人一人が補助機関であることを忘れて、組織内部の最適化に特化し、いわゆる悪い意味でのサラリーマン化してることの裏返しかなと思います。

今回、資料をいただいて、弥富市のホームページに、行政評価についてはきちっとレジュメがPDFで表示されてました。そこに書いてあったのが、行政評価とは、行政が行う施策や事業を、住民にとっての効果は何か、当初期待したとおりの成果は上がっているかというふうにきちっと書いてありました。こういう視点で、主観的に評価、検証を行うものであり、先ほどのご指摘にあったような、効率、公平な市政、住民に分かりやすさを目指すものだと思いますけども、やはり市民との、外部との真剣な連携が必要だと思います。

この中で、真ん中の、協働と自主自立によるまちづくりの普及、実践についてなんですけども、具体的に、正直、今の本庁の担当スタッフ、すごい少ない人間ではやりきれないと思います。

ここに3つほど書かせていただきましたけども、市民が主体となってまちづくりを着実に積み上げるためには、弥富市の成り立ち、その要因と結果、まちづくりの歴史。

これは行政マンであった利っていうのは分かってるんですけども、こういうのを体系的に並べる仕組みが必要だと思います。一番使えそうなのは、図書館と民俗資料館。図書館には郷土資料室がありますし、民俗資料館は当然あれですけども。機能にそれを付加して、司書と学芸員と、総合計画の担当職員は今、非常に乏しいものですから、ちょっとここをもう少し膨らませる必要がありますけども、私のような、ワークショップに来る市民ボランティアと協力して、弥富のまちづくりとか、今回ここに出てきている総合計画のバックボーンとなる資料、これは先ほども委員がおっしゃってましたけども、簡潔に分かりやすくということになると、一般市民が分

からない統計資料がかえって惑わしてしまうので、されどそれは必要な話なので、そういったものが、例えば図書館の総合計画のコーナーのところで閲覧できる、ブラウジングできるみたいな形で、資料収集、展示、普及啓発を持ったまちづくり資料室みたいなものを、これは市民との協働でないと作れないと思いますけども、運営すべきじゃないでしょうか。

2点目です。防災が重要だというふうに取り上げられていて、ありがたいんですけど、先ほど市長もおっしゃったように、非常に予算と人員の上で厳しいと思います。今回の計画の中に成果目標を書くっていうのはかなり厳しい。だから、5年か10年かけて仕組みづくりを総合計画に盛り込むのが現実的だと思います。

具体的には、私、この間、長岡のとある自治体向けの研修にプライベートで参加してきたんですけども、実際の市で行ってるんですけども、もう発災したときのために、担当する地区や避難所を各課に割り振っておくと。発災したときには、その課が責任を持ってローテーションでいくものですから、きちっといくってことだけじゃなくて、事前から防災会の活動などの連絡調整を、その課ごとにやっておいてくれば、今、市民との関係づくりを各課で考えろといっても、逆に自分の担当してる職務だとやりにくかったりして難しいんですね。防災のボランティアって、割と行政のことも理解してくれて、いわゆる練習台としては非常に都合のいいボランティア層だということを思っていますので、そういうトレーニングという意味でも効果的だと思います。

3番に、ちょっと繰り返しになりますけども、一部の市民協働課っていうのを、今のこの規模の市で作るっていうのは厳しいと思いますので、今みたいな形で、防災を突破口にして、市民参加とか評価ってものについて取り組んでいくといいなと思います。

それから最後に、行政経営の観点による、持続するということなんですけども、最近議会で残業問題が問題になってます。非常に今、人員が削られている。私も3月まで厳しい思いしてますので、じゃあ、それが何かというと、結構霞が関からの仕事の丸投げとか、マスタープランで、実際数値作らされるんですけども、数値作りながら、こんなんできるのかなあと思いながら数値を作っているという実態も自分で体験してますので、ちょっと立ち止まって、今回の総合計画で、例えば、避難所を5年以内に何個作らなきゃいけないということよりも、市民と実際に対話して、本当に必要なものを作れば、それが3個でも2個でも1個でもいいじゃないというような組織風土を再構築する必要があると思います。

2点目が、将来の財政問題ということで、今、喫緊の課題やってきましたけども、実はですね、ここはちょっと強調しておきたいんですけども、実は、私の同級生で村瀬さんって方がみえるんですけども、かつて企画財政課長という職にあられたんですね。私がいた職場でも、財政と企画が一緒だったんですよ。今回は秘書企画課長ってことなんですけども、財政課長が主管されたほうが、今後の財政っていうテーマから言うと、いいんじゃないでしょうか。

実は、財政課の職員っていうのは、普段、市民と直接接する機会がどっちかというとな少ないような気がするんですけども、逆に一般的に、財政部門っていうのは、将来を期待する若手を鍛える場っていうのも、実は通り相場で、そういった方が若いうちから、1人じゃなくてね、複数の財政課の何人かで、やる気のある市民と幅広く接して、市民に分かる言葉で財政問題を説明するっていうトレーニングを積んで、市の長期的な課題について取り組むということが、市役所全体の活性化という点でもいいような気がします。

もう1つメリットがあって、4番目に書いたんですけども、これは私の経験談なんですけども、各事業課にしてみると、総合計画で総務のほうからきても、それは字面の話なので、実際、財政課と調整できてないことを書いて、後で財政課に怒られるとか、これは実際ある話です。だから、やっぱり財政課が一緒になって総合計画の数値目標っていうのを、むしろ財政課が中心に数値目標をやってくれたほうが、ここは実際、じゃあ、これ差し出すからこれは何とかしてね、みたいな話も、本気になってできるので、自分の経験談から、そういうことによって事業課としても、総合計画の本気度も含めて、責任感ができてくるような気がします。

ちょっと勝手なことを言ってますけども、ほんとに職員の方、今、担当の横井さん、一生懸命やってらっしゃるような気がこちらから見受けしますけども、全ての職員が計画の段階から参加して、優先順位をしっかりと付けた総合計画にしていきたいなと思います。以上です。

釜田会長

ありがとうございました。佐藤さんのほうから、主に構想の推進に向けてということで、その運営面に関するご意見、特に、佐藤さんご自身のご経験から、市役所の組織面であるとか、職員の意識、あるいは市民との協働、そういったことに関して、非常に数多くの有意義なご提案があったかと思えます。

この骨子案を作っていたいただいた事務局側のほうで、現時点で何かお答えできることがもしあればお願いしたいんですが、佐藤さんのご意見に関して。いろんなお話が出てきましたので、その中で何かございましたら。

副市長

先ほどの佐藤さんのお話の中で、いわゆる横のつながり、有機的に、私は有機的って言葉を使っちゃいますけども、やっぱり自分の部署だけじゃなくて、今言われたように色んな分野で関連性があるというようなことをやっぱり考えなきゃいかんかなというように思います。それと、いろんな計画、事業評価の中でもそうですけど、いろんな計画が立てられてないといけないですけど、あれを立てろ、これを立てろ、いろんな計画の要請が上のほうからきますよね。実際に僕も思っていて、計画をこれだけ作って実際にやれんのかっていうのはありますので、総合計画においても、やはり計画のできる計画、計画のための計画ではいかんなと思っております。実行性のある計画であるべきだなというふうに思っています。答えになるかどうか分かりませんが、皆さんの意見も踏まえて、しっかり実行性のあるものにしたいというふうに思っております。

釜田会長

ありがとうございました。では横井さん。

事務局(横井)

私もワークショップのほうへ参加させていただいて、今まで、秘書企画からきて3年たちます。こういう政策関係の仕事なんですけれども、初めて市民の方たちと、政策に対するご意見とか、熱意とか、市に対する要望とか、すごい真剣に、さっき言われたように、あれしてくれ、これしてくれじゃなくて、自分たちでどうしようかというワークショップの皆さんがおみえになったことを、実際身をもって体験したもんですから、そういう機会を、やはり行政としても、今後持っていく必要があるのか。防災関係であれば、最近よく、学区ごととか、定期的にワークショップ等をやられて、かなり行政と市民の方が近い状況にありますけれども、いかんせん、まだまだ総合計画っていうか、この政策分野に関しては、まだ遅れてる分野がありますので、今後の検討課題として前向きに進めていきたいと考えます。以上です。

釜田会長	ありがとうございました。それでは、他の委員の方。お願いします。鈴木さん。
鈴木委員	この資料の基本指標の中の、人口4万3,000人というのがあると思うんですけど、これは弥富市人口ビジョンに基づいて設定をしたということなので、多分決まってる数字なのかなということですね。 記載する数字としては、もうほぼ決まっているということですか？
事務局(横井)	そうですね。人口ビジョンのほうでは、年度がきっちり総合計画とはぴったり合わないもんですから、その中間年を取って、案分しながら計算していった数字になっております。
鈴木委員	資料1の52ページ、弥富市人口ビジョンというのが載っていて、その推計だと思うんですけども、その中で、普通にいったらもっと下がるんだよと、それを適切な施策を講じて何とか4万3,000人にしますと、こういう記述なんですけれども、現実には、先ほどのお話で流出が多いと。それから、特に若い人が、転出希望が多いというようなお話がありまして、恐らく、今と同じようなことをやれば、当然この黄色いラインではなくて、青なり緑なりのラインにいつちゃうと。そうすると、適切な施策を講じてっていう、その適切などという部分を、ちょっと具体的に教えていただきたい。どういうことを、想定の段階かもしれませんが、何をやられるのか。それは、恐らく総合計画の施策として、きちんと明確に記述されていくと思うんで、もし想定が答えできるなら、ちょっと聞かせていただきたいなと思ったんですけど。
事務局(横井)	特段、まだ具体的な部分はないんですけども、人口ビジョンを策定した段階で、同じく総合戦略という計画を立てております。人口減少を食い止める、東京一極集中を避けるための市の方策として、総合戦略という計画を、2年前でしたっけ、策定しておりますので、それともリンクさせながら、それも当然、毎年進捗状況等、計画見直ししていきますので、そういったものとリンクしながら、4万3,000人になるように施策を打っていきたくて、記載していきたいというふうには考えております。
鈴木委員	これは具体的に言うと、合計特殊出生率ですか、これが1.79だとか、2.07とか書いてありますけど、これも何か推計の時に使われた数値があるのでしょうか？
事務局(横井)	また確認させていただきます。すみません。
鈴木委員	要は、人口が減少する総合計画っていうのはなかなかしにくいものだと思いますけど、こういった世の中ですので、致し方ないと思うんですけど、できるだけ高く設定するのはいいんですけど、やっぱり裏付けとなる施策なりはきちんとしておいたほうがいいのかなと思います。
釜田会長	佐藤さん、どうぞ。
佐藤委員	今の先ほどの関連で、これはワークショップで、私は弥生学区なんですけども、ワークショップで栄南、大藤の方々が、生の声を聞いてよく分かったんですけども、息子夫婦、娘夫婦が、少なくとも駅前に行って世帯を

構えたい、大きな屋敷があるのにていうことを切実におっしゃってまして、実は、それは、ここのアンケート結果に出てるんですね。なので、恐らく、この序章のところで、市民意見等のところで、南部の交通の便が悪いと。非常にこれは切実な問題であるということが出てきていることを踏まえて、第3章、まちづくり課題認識のところで、ファミリー世帯の定住促進であったり、地域内交通の改善みたいなことが喫緊の課題だと。それを各課に、各部門にですね、それは例えば、保育園部門がどうなんだ、全ての課がそこを受け止めてやってくっていう意味で、それが喫緊の課題であるっていう認識は、多分、今担当してるところは認識してらっしゃると思いますので、問題は、それをいかに各課に下ろしていくかってことかなという気はします。以上です。

釜田会長

ありがとうございます。予定の時刻過ぎているんですけど、その他の委員の方、ご意見ございますか。林さん。

林委員

基本構想の中で語られるかどうかよく分からないんですけど、アンケートのときに、先ほど佐藤さんがお話ししてることとつながるんですけども、やっぱり弥生とか桜とか、駅周辺の方と、栄南とか大藤とか十四山の方とか、かなりアンケート結果自体も大きく違うということもおっしゃってたんですけど、それがここにどうやって反映されるかっていうことで、これ見ると、何かそんなに反映されてるように見えないんですけども、そのあたりを十分に考慮いただきたいというのと、あとは、資料の作り方については、ちょっと細かいことで申し訳ないんですけども、原則、踏襲した記載すると書いちゃうと、これやっている意味事体どうなるのみにたいに思われてしまうので、考えてほしいなっていうのが1つあります。

あと、もう最後ぐらいになると思いますので、次のこういった会合のときに、ちょっと要望なんですけれども、資料が非常によく分かりづらいです。どこを見てるか全く分からなかったのので、次回、ちょっとそこら辺を、そのあたり、コンサルさんも含めてかもしれないですが、改善いただくと、どこに何の資料があったかというのが、これ、事前の資料と今回の資料と交ざってるような状態だったので、そのあたりは改善、強く要望いたします。

釜田会長

ありがとうございました。はい、入江先生どうぞ。

入江委員

時間がオーバーしていますので、簡潔に申し上げます。第1章、第2章と、それから第3章のところで、第2章、第3章の間で溝ができないようにということ強くお願いしたいと思います。といいますのは、大変重要になってくるのは、第2章の市民意向と、それから現行計画の進捗状況、これは評価結果になると思いますけれども、こういったアンケート調査をした、それから、ワークショップの成果が上がった、職員の方の評価が出た、これをどう生かすかというところが大事なので、次のところでどう繋げるか、方向性を市としてどう捉えて、どこにどう生かすかっていうことを明確に受けて、第3章の展開というふうにしていただきたいと思います。そうでなければ、アンケート調査もワークショップもやりましたということでおしまいというのは大変もったいないと思います。とりわけ、このワークショップの結果について、今日初めて拝見しましたけれども、大変意味のある提言が多く出されていて、こういうことが市の財産になっていくと思うんですね。このように参加してくださる市民がいらっしゃるということは、これから市のエンジンになると思います。とりわけ、協働という

ことを前面に出されるのであれば、こうした取り組みをぜひ継続してやっていただきたい。ここに来られているような方々を核として育てていただいて、これから各方面での協働ということを進めてもらうということにしないと、もったいないと思います。

それから、協働ということについてもう1点ですけれども、各課でこれから本当に協働ということの本気で推進されるのであれば、例えばですけれども、各年度の事業評価の中に、協働の観点からの項目の評価を入れていただいて、例えば、この事業は協働ということが可能な分野かどうかということをもとに判定した上で、どういう点で協働が、できる分野であれば、どういう点で進んだのか、それがどのように成果につながったのかというような観点を入れていただくと、各課の方も、協働ということをもとに念頭に置いて取り組まれるのではないかなというふうに思います。以上です。

釜田会長

ありがとうございました。そうですね。入江先生がおっしゃっているように、このアンケート調査、市民ワークショップ、そして現行計画の評価。ここから十分に関連付けた形で課題認識を出すと。ここがいきなり唐突に、この第3章の5つの課題っていうのが登場するというのではなく、2章からの関連付けっていうのをしっかりとやっていっていただきたいと思います。また、当然、この第3章の課題認識というのが前提となって、次の基本構想が出てくるはずですから、そこに関して結局分かりやすい計画っていうことが、佐藤さんもおっしゃっていたように、文言の話じゃないんだと。構成と論理的に分かりやすくなければいけないということともつながると思いますので。

また、この基本構想の中でも、いろんな言葉が出てくるんですね。将来像、キーワード、方向性とか、基本目標。こういったことのそれぞれの関連、構造というものをなるべく分かりやすくしていただきたい。場合によっては、もう少しシンプルにしているのかもしれないというふうには思っています。

その他、ご意見ございますでしょうか。では、もう時間も過ぎておりますので、申し訳ありません、長引いております。では、さまざまなご意見をお聞きすることができたと思いますので、また事務局側は大変なお仕事ではありますが、修正等のうえ、基本構想骨子案を、決定ということではないですよ。またこれ、修正の上、また皆さんにお見せするっていうことでよろしいですか、第3回の審議会の前に。また修正のうえ、骨子案を再度作成していただければと思います。

5 その他

事務局（秘書
企画課長）

事務局より2点、連絡がございます。1点目は、次回、第3回弥富市総合計画審議会は、来年3月5日（月）午後2時30分からこの場所での開催を予定いたしております。後日改めて委員の皆さんに、ご通知させていただきます。2点目は、今週9日（土）午前10時から「第2次総合計画策定セミナー」を開催いたしますので、ご都合のよろしい方は、ご参加いただければ幸いです。事務局からは、以上となります。

釜田会長

それでは、最後になりますが、本日の審議会の全般について、何でも結構ですので、委員の皆さんの中で何かご意見、ご要望等ございましたらご発言をお願いいたします。よろしいですか。

それでは、ご意見、ご要望等も無いようですので、これで議事を終了したいと思います。ここで進行を司会者に戻したいと思います。よろしくお願ひします。

事務局（秘書
企画課長）

6 閉会

本日は、釜田会長をはじめ各委員の皆様、大変お疲れさまでございました。本日は、公私ご多忙の中当審議会にご参集いただきまして、また、慎重審議を賜りまして大変ありがとうございました。以上をもちまして第2回弥富市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。